

だれでも幸せになれる教えです!!

ひかり

2021年

7月

191号



◇年忌法事は盛衰の分岐点
おしやれな人生とは！

宗教法人 真生会

仏の種を育てよう！

『一人が一人、仏縁にお誘いしよう』

真生会の教えとは！

仏さまの智慧とものの見方を身に付け、自分の運命を変え、在家の法華経教団です。宗旨宗派は問いません。どなたでも安心してお越し下さい。

◇慈悲の世界「真生楽園建設」

- ・ぬくもりと安心のある家庭と社会を作る
- ・思いやりと親切の実践

◇即身成仏「輝く自分作り」

- ・ありのままに輝く自分自身になる
- ・笑顔と明るい声がけの実践

◇幸福の五ヶ条

- 一、素直な心：（おかげさま）
- 二、誠の心：（まず人さま）
- 三、明るい心：（きつとよくなる）
- 四、尊ぶ心：（仏性を拝む）
- 五、信じる心：（皆、仏の子）

初夏への装い着々と!!

山門の大松も剪定が終わり、すっきりした姿で参拝者をお迎えます！



白亜の殿堂
光徳会館

化粧直し完了!!



蓮の花も
元気に育
ち始めま
した。



◇ YouTube「**真生寺ナムル**」で法話を一般公開中◇

教母さま二十七回忌

こちようき

胡蝶忌法要



こうせんいんしんせいあんりゆういくんほうに
廣宣院真生安立偉君法尼

田中君枝教母さま

ご命日 平成七年七月三十一日



「おしゃれ講座」

講師として活躍！



開祖さまのみ教え

開祖 田中偉仁

金杯には酒が満たされ、やかんにはお茶が入る。バケツには雑巾が入れられるように、器によって入る中身が異なってくる。

もし、自分の周囲に訪れる諸々の出来事に喜べない、嫌な問題が累積るいせきされるのであれば、これは誰のせいでもない。今日まで自分が歩んできた道で、いかに徳が積めていなかったか、いかに自分中心の生活であって、有形無形の内にたくさんの人に徳を削っていたかが、今日の喜べない答えと自覚せねばなりません。これに気付き反省できれば、嘆くことも腹の立つことも無くなり、心の波も自然と治まってくるものです。徳の積めている人ほど、一旦いったん緩急かんきゅうあれば冷静を保ち、事の善悪を正しく判断し、自らの言動を慎み、相手を常に生かし、すべてを建設的に考えて事を進められるのです。

(1979年、真実に生きる5号より)

ご真教法話

会長 田中庸仁たなか つねひと



◇年忌法事は盛衰の分岐点

まもなく新盆、旧盆のお墓参りの時節を迎えます。コロナ禍が続く中であるからこそ、私たちの生命の根源であるご先祖さまとのパイプを太くして、ご守護を頂くことが大切であります。特に亡き親や祖母の年忌法事は、一家の盛衰せいすいの分岐点です。会ったことのないご先祖さまも多くいらっしゃいますが、知らないからといって手も合わせず、供養もしない忘恩の生活に幸せはやって来ません。そして、今の幸せも根が切れていては長くは続きません。

伝統仏教が何百年も続いているのは、実際に出会った事の無いお祖師様である伝教大師、弘法大師、法然上人、親鸞聖人、日蓮上人といった開山祖師の遺徳を偲しのび、何百年たってもご遠忌おんきといって報恩法要を営み、現在も生きておられるように毎日飯水茶のお給仕をされていますから、大きなお徳とご守護に守

られています。つまり報恩の家や会社や組織は栄え続けるのです。

七月三十一日は真生会の教母さまの祥月ご命日であり、今年は二十七回忌胡蝶忌法要を迎えます。二十七年も経つと教母さまを知らない会員信徒の方も多いと思いますが、創始者である開祖さま教母さまに会員一人ひとりが感謝の祈りを捧げる時、個人も教団も大きな功德が頂ける変化の節目です。総本山はじめ各教会のご法要に是非お参り頂き、利供養（お供え）敬供養（読経供養）行供養（教えの実践）のお布施をお供えし、仏さま、開祖さま、教母さま、ご先祖さまのお徳を頂きましょう。

◇年忌法事の功德

振り返ってみますと、真生会は法統を務める会長家の年忌法事や因縁の年周りのたびに大きな功德が現れ発展してきました。

①宗教法人認可（昭和五十三年十一月）

田中家を法華経に導いた大恩人、開祖さまの母、志づゑの七回忌の年。

十一月は田中家にとって長い間鬼門（凶運）の月でしたが、これを境に十一月が福運の月に替わりました。

②真生寺購入（昭和五十六年十一月）

開祖さまの父、信次の二十三回忌の年。開祖さま五十六歳で二万坪の聖地総本山真生寺を購入されました。開祖さまの祖父、父の二代にわたって五十六歳で倒産、家土地を失うという因縁の年周りが大転換。

③岐阜教会（旧本部）用地拡張（平成二十五年）

現会長五十六歳の年。五十六歳で家土地を失うという田中家の負の因縁が、開祖さま現会長の二代にわたり、土地が増えるというプラスの因縁に大転換。

◇年忌法事は一大事業

みなさん、年忌法事を境にわが家は発展してきているか、運命が尻下がりになっていないか。子や孫という枝葉は憂いなく伸びていますか！今一度、ご自分の家庭の運命を振り返ってみて下さい。年忌法事を大切に営んでいますか？因縁の年周りを知って、因縁切り替えの徳を積んでいますか？

年忌法事は単なる恒例行事や消化試合とは違います。その後の一家と自分の人生を大きく変える重要な分岐点であり、法事は心を込めて精一杯の徳積みをさせて頂く大事業です。これは法事を務める本家だけの問題ではなく、参列す

る家族や兄弟も同様です。形ばかりの布施ではなく「長者の万灯貧者の一灯」各自の力に応じて最大限のご恩報じの徳積みをさせてもらいましょう。

最近コロナの関係もあり、近親者だけの家族葬が増え、法事もないがしろになり、故人の尊厳が疎かわづろになってきています。導師のお坊さんもセット価格、格安価格のうたい文句で、まるでバーゲンセールのようにネット通販を通じて何の繋がりもない坊さんを注文する動きがありますが、節操も品位もありません。ご縁の深い信頼できる高德の僧侶を迎え、読経とご法話を頂いてこそ、故人を称える意義ある葬儀や法事となるのです。

◇おしゃれな人生とは？

さて、教母さまは開祖さまとご結婚以来四十二年、陰役として支えて来られました。晩年の数年間は開祖さまと共に布教の表舞台で活躍され、写真にありますように某ホテルで講師となって「おしゃれな人生」をテーマに、多くのご婦人に講演もされました。教母さまの生き様を振り返り、会員皆様も読者も教母さまのようにおしゃれな人生を生きて頂きたいと思えます。

おしゃれな人生とは、流行のきれいな服や宝飾品で着飾ることではありませ

ん。教母さまの本当のおしゃれとは、

①愚痴をこぼさない・・・数々の大試練や赤貧洗う貧乏生活にも、創意工夫をして、弱音を吐いたり愚痴をこぼされることはありませんでした。

②チャレンジ精神を持つ・・・常々「人にできて自分にできないことはない」と水彩画、刺繡ししゅう、手編み、消しゴム印鑑作り、日曜大工など何にでも挑戦し、作品を人に差し上げて喜んでもらっていました。

③素直なこと・・・常に教えに対して素直であり、信念が揺らぐことはありませんでした。晩年、立正佼成会の庭野開祖さまと親交がありましたが「田中さんは本当に教えに対して素直だ、我が娘のようだ」と目に掛けて下さいました。

◇生きた親とも心をつなぐ

四十代後半のご主人が、再就職の時期と方位を見てもらいたいと夫婦で相談に来られました。聞けば三度目の転職で、年齢的にもラストチャンスです。時期と方位だけなら、易者や占い師でも見れますが、大切なのは心構えです。

開祖さまの教えに「親指と小指の譬え」があります。人差し指から小指までは子供です。どの指も親指と繋がった時だけ丸ができます。丸といえばお金で

あり円満です。これが離れているとお金も円満も漏れ^も出てしまいます。特に父親と心がびしやりと繋がっていないと仕事や経済に恵まれません。

転職の理由は、以前の会社は社長が変わって勤めにくくなり、今回は正社員になっても給料が上がらないため生活がやっていけないという事情です。

「実家に行っても母と話をしても、真面目で堅い父親とはあまり話をしないのではないですか。両親を前に話をしても、父の顔を見ずに話しては繋がったことにはなりませんよ。最近の若者はスマホが手離せませんが、実家へ行ってもスマホばかりやっていて親とコミュニケーションを取っていないのではないですか」「はい、先生その通りです」

「方位や時期は良くても、親との根本が欠けていましたら、何度転職しても最後は当てが外れてしまいます。今日から直ちに父親と心と言葉をつなげていけば大丈夫です」

「先生よく分かりました。夫婦共々両家の親の心を汲むように頑張ります」と笑顔でお帰りになりました。

亡きご先祖と共に生きた親ともしっかり心をつないだ人生を送りましょう。

釈尊物語

⑪

◇◆徳積みにゴールはない◆◇

天眼は開けましたが、肉眼を失い失明した阿那律が、ある時、精舎にあつて衣のほころびを縫おうとしていました。

しかし、目を悪くした彼にはどうしても針に糸が通せないのでした。そこで阿那律は、心の中でひそかに念じました。

「この精舎で修行に励む者の中で、誰か私のために、この針に糸を通して徳を積んでくれる者はいないだろうか」

釈尊が阿那律の心中を察知して、近づいて言われました。

「阿那律よ、私が糸を通して徳を積ま

せてもらおう。その針をよこしなさい」
思いもかけぬ釈尊の言葉に驚いた阿那律は「大徳よ。それはとんでもない。お畏れ多いことです。大徳よ、私が心の中で念じたのは、誰か修行者の中で徳を積み、幸いを求めようとする者があれば、この針に糸を通してくれるがよいということでありませう」

「阿那律よ、私にだつて徳を積ませてくれてもよいではないか。私だつて、幸いを求めることでは、人後におちるものではないのだよ」との返答は、またしても大きな驚きでした。何故なら、彼にとって釈尊はすでに悟りを開き、最高の境地にあつて徳分を完成され、何の求める所もない方だと思つていたからでした。

「大徳よ、如来の身はすでに真理と一体であられ、生死の海を渡り、一切の愛着を脱しておられます。今さらどんな理由でこれ以上徳を積まれる必要があるのですか」

「阿那律よ、如来といえども徳積みに終わりはないのですよ。人の施しや善行に、もうこれでよいという限度というものはないのです。つまり、正しい道を追求するにも、ここまでだという際限はないのです。仏道そのものが無窮むきゆうなのです」

如来だからといって、もはや求める所はないなどというのは、仏教を理解すること、なお未だ遠しとしなければならぬと、この物語は教えています。

修行と徳積みにゴールはないのです。

開祖さまも生前いつも、勤勞奉仕や布教活動の先頭に立ち、ご信者皆様と汗を流されました。

そして、信仰は「もうわかったと思つたその時から分からなくなる」と言われ、常に生きた師を求め、生きた師に添削を受けられ、生涯徳を積み自らを磨き続けられました。

私たち弟子信者も、お釈迦さまや開祖さまの歩まれた道に続いて、いつでもどこでも誰にでも、徳積みの善行をさせて頂きましょう。幸せの生活に天上はありません。徳さえあればどこまでもどこまでも、昇つていけるのです。

今月の運勢（8月）

（2021年8月7日～9月6日）

一 白水星

収穫の喜びを迎え、楽しみを分かち合う時ですが、はしゃぎ過ぎてはいけません。節度ある楽しみ方を心掛けること。しかし、出来もしない度を越えた節度もいけない。何事も調節が大切な時である。

二 黒土星

謙譲の美徳が大切。大きな問題にぶつかり変化の時期を迎えている。能ある鷹が爪を隠すから謙であり、卑屈ではない。謙遜であれば始めは悪くても終わりは良しとなる。驕慢はもつともよくない。

三 碧木星

太陽の光を満身に受け

て輝くばかりの明るさで行動しよう。誰に対しても公平に慈愛の精神であまねく照らせば事は思い通り運ぶが、度を越した盛大は衰落のもととなる。

四 緑木星

心に引つかかっていた問題が喜びで散る。先祖供養の徳で長年の困難が解消し、悩み事から解放される。守るべき結束が崩れそうなき、離散を防ぐのも先祖供養が鍵となる。

五 黄土星

大きく活動するよりコツコツと基盤づくりをする時。人に優しく、

従順に接することを心

掛けよう。基盤汚れは運氣を下げるので、玄関や台所やトイレの清掃を心掛けるとよい。

六 白金星

新しい目標に向かって何事も無心になって行えば、天から望外の助けとご褒美がもらえる。但し、正道を歩めばよいが、動機が不正なら災いがあり、天から落雷が落ちる。

七 赤金星

運氣は最高潮だが重責の重圧がピークに来ている。弱気にならずやり過ぎぐらいの活力で切り抜けることができ。従順で人に喜ばれ

ることを心掛ければ願

い事は叶う。

八 白土星

大いなる停止の時。歩みを止めて山のようにどっしりと構え周囲の様子を確認すること。何を終わらせ、何を始めるるとよいか熟慮して判断しよう。エネルギーを蓄える時。

九 紫火星

新しいことを始める時ではない。積み重ねてきたことを完成充実させる時。天命に従い仲間の結束を大切に、一層の充実を図ること。目的完成に向かつて無心に協力すれば計算以上の結果となる。

「まごころ誌代」御礼

石丸祐視子	滝山恵依子	加納悠貴	高橋身衣	松尾定洋
林田早紀子	坂本育身	福元正子	多田祥子	横山都久子
奥田佳代	笹原トミ子	四日市某	亀井善二	後藤清美
細谷早予子	笹原正子	東森敦巳	亀井善広	堀部英敏
今井純司	坪井佑介	高橋けさ江	亀井由実子	土川順寛
片桐淳子	八色健之	滝本光夫	田中宏明	土川恭代
今園雄太	某女	京川春男	田中啓予	土川康二
荒木敬依子	谷口祐晟	鈴木正巳	横井志奈子	土川廣美
小俣丈子	谷口祐子	松本裕樹	多田佳央	横山知津子
小村一紘	小林佑実子	大橋千枝子	宮田雄貴	半澤照子
小村友子	宮島りえ	田中庸仁	河合健司	伊東 晃
永田雅子	出田 溪	田中佑季子	河合愛実	安田初子
大下裕子	堀田純子	平工晴康	河合詩遠	佐藤百々枝
村上視佑記	正木みつ子	平工絵里子	河合里紗	佐藤光洋
平口富子	岸本昌子	早野起世	河合央真	増田恵視子
池澤幸代	岸本周夫	足立和美	大橋末子	山本季美衣
三村南央斗	澤 君美	豊田直正	山部眞一	
三村千佳	澤 芳子	豊田真悠子	桑原聖子	

★皆様の『まごころ次第』献金のご協力によって継続発刊しています。
紙面をもって感謝申し上げます。(敬称略・順不同)

《入会のご案内》

真生会は、個人の心の勉強と実践を目的とする個人会員制です。各家の宗旨宗派はご自由です。詳しくは総本山真生寺、各教会にお尋ね下さい。

☆会員会費 500円/月

発行所 宗教法人 真生会 総本山真生寺
〒501-1105 岐阜市彦坂178番地
TEL 058(235)7304

発行人 会長 田中庸仁

振込先 三菱UFJ銀行 岐阜支店
普通口座 3715509

名義 宗教法人真生会 代表役員 田中庸仁

しあわせ眼鏡

いつも人に喜んでもらうこと
と努力していること
苦勞の数だけ
笑顔が増える
いつも自分の思い通りにし
ようと行動していること
苦勞の数だけ
しわが増え悩みが増える

お気軽にご連絡ご相談下さい

- | | | |
|----------|-----------|--|
| 【総本山真生寺】 | 〒501-1105 | 岐阜市彦坂 178 番地
TEL 058 - 235 - 7304 |
| 【岐阜教会】 | 〒500-8882 | 岐阜市西野町 3 - 19
TEL 058 - 262 - 9615 |
| 【大阪教会】 | 〒532-0028 | 大阪市淀川区十三元今里 3-4-10
TEL 06 - 6308 - 5637 |
| 【名古屋教会】 | 〒454-0808 | 名古屋市市中川区九重町 3 - 10
TEL 052 - 351 - 3904 |

上記の教会にお申込み下さい。必要な冊数を毎月お送りします。詳しくはお尋ねください。